

# 令和4年度 家庭教育オピニオンリーダー研修③ 実施報告

実施日：令和4年9月14日（水）

第3回の研修は、新型コロナウイルス感染症対策を行い、総合教育センターに集合して実施しました。

## ○ 説明・演習「家庭教育支援プログラムについて」

栃木県総合教育センター 生涯学習部



家庭教育オピニオンリーダーが実施している家庭教育支援の取組には『子育てについて保護者が学び合う機会』の運営や進行といったものがあり、その際に活用されている「家庭教育支援プログラム」のねらいや期待される効果、基本的な進め方について説明がありました。また、プログラムの実際を体験するため、プログラム中のワーク（子育てにまつわるエピソード等を基に実施する協議などの活動）も行いました。短い時間でしたが、受講者は家庭教育支援プログラムの概要を知ることができました。

## ○ 事例発表・座談会「家庭教育オピニオンリーダーの活動について」

栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会長 松岡 あゆみ 氏  
研修部長 高松 真里 氏

副会長 桐生 澄江 氏  
広報部 岡田 千恵子 氏

栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会の活動について、会長の松岡氏をはじめとする4名の会員から説明がありました。まず、松岡氏から、連合会は発足から30年を超える歴史ある組織として、子育て・人づくり・地域づくりを目標に活動していること、県内7ブロック33支部が、それぞれの得意とする分野で、また地域からの要望に応じて、地域に根づいた活動を展開していること等について説明がありました。



その後の座談会では、連合会の活動に関する受講者からの質問に、4名の会員が丁寧に答えました。『どの支部でも新会員の加入を待ち望んでいる』『自分のやりたい活動を地元の支部でぜひ提案してほしい』『活動の効果だけでなく、自分たちの居心地の良さも重要視してほしい』といった言葉から、受講者は、連合会の活動内容とともに、会員の方々の熱心な姿勢や思い・願いにも触れることができたようでした。

## ○ 説明「遊びの中で育つ子どもたち」 栃木県幼児教育センター 幼児教育指導員 小倉 庸寛 先生



家庭教育支援の活動に携わる上で、子どもたちの育つ過程や特性などへの理解を深めておくことは大きなメリットとなります。小倉先生からは、御自身が経営される認定こども園での子どもたちとのかかわりやエピソードを事例として示しながら、幼児期の子どもをどのように育むのか、またその育ちに大切な要素は何か、といったことについて説明がありました。

最初に、「幼児期の子どもたちは遊びを通して様々なことを学ぶ」ということが幼児教育の基本であるというお話がありました。次に、幼児期の子どもたちの指導においては、「健康な心と体」、「協同性」、「数量・図形、文字等への関心・感覚」「道徳性・規範意識の芽生え」、といった、全部で10種類の資質・能力を育むことを目指しているという説明があり、日常の生活や遊びを通して様々な『生きる力』を育てていく幼稚園児たちの様子を写真や動画で確認しました。そして、保育者の援助の在り方として、「子どもたちの声にならない心の声に耳を傾ける」、「子どもの力を信じる」、「一人一人の特性に応じた支援をする」、「子どもが一番話したい相手になる」、「モデルになる」という5つのポイントが示されました。

受講者は、自分の子育て経験も想起しながら、幼児期の子どもの育ちを支えるための基本的な考え方について理解を深めていました。



## ★受講者の声（アンケートから）

- ・地域性、行政との関係性など難しいこともありますが、自分自身も楽しみながら活動に取り組めるようになりたいと思います。子ども、親の心を吸い上げて活動ができたらいいと思いました。
- ・今の保育に必要な要素の一つに「非認知能力」を高めるとあり、それが遊びを通して学ぶ幼児教育にあったことが分かって勉強になりました。やり抜く力や学びに向かう意欲、自制心や協調性などを、遊びを通して育むことを知りました。
- ・今どきのお子さん、そしてその保護者とのかかわり方について、しっかり勉強しなくてはと思いました。人間いくつになっても勉強しないと…と思います。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで  
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp